

D. 微生物学分科会

ワークショップ

3月30日(水) 第2会場 演題番号 DW1-1~DW1-4 13:30~15:30

座長: 杉本千尋(北大)、関崎 勉(東大)

次世代シーケンス技術による微生物のゲノム解析

- DW1-1 超高速シーケンサーを用いたゲノム配列決定…………… 111
○豊田 敦 (国立遺伝学研究所)
- DW1-2 Transcriptome Analysis of Apicomplexa Parasites using a Massively Parallel Sequencer…… 111
○鈴木 穰 (東大院 新領域)
- DW1-3 新規情報学的手法を用いたヒト腸内ならびに環境メタゲノム配列群からの効率的な知識発見… 112
○阿部貴志¹、上原啓史¹、金谷重彦²、池村淑道¹ (¹長浜バイオ大学、²奈良先端大 情報)
- DW1-4 次世代シーケンサーによるパンデミック・インフルエンザウイルスA/H1N1/2009の多様性
解析…………… 112
○黒田 誠 (国立感染症研究所 病原体ゲノム解析研究センター)

ワークショップ

3月30日(水) 第2会場 演題番号 DW2-1~DW2-4 15:30~17:30

座長: 迫田義博(北大)

ウイルスの生き残り戦略に対する新たな取組ー牛ウイルス性下痢ウイルスー

- DW2-1 ペスチウイルス感染症 -その特徴と現状-…………… 113
○迫田義博 (北大 微生物学教室)
- DW2-2 牛ウイルス性下痢・粘膜病の新規診断法と解決すべき問題…………… 113
○亀山健一郎 (動衛研)
- DW2-3 牛ウイルス性下痢ウイルスと宿主との相互作用…………… 114
○山根大典
(ノースカロライナ大学チャペルヒル校医学部・東京大学大学院農学生命科学研究
科 獣医微生物学研究室)
- DW2-4 牛ウイルス性下痢ウイルスの宿主ー牛以外の動物における感染と実態ー…………… 114
○青木博史 (日獣大 獣医・獣医保健看護基礎)

シンポジウム

3月31日(木) 第1会場 演題番号 DS1-1~DS1-6

9:30~12:30

座長：高橋英司（帝京科学大）、明石博臣（東大）

口蹄疫発生—防疫に対する科学的アプローチ（共催：司宰機関・(社)日本畜産学会）

- DS1-1 世界における近年の口蹄疫の発生と防疫…………… 115
○津田知幸 (動衛研)
- DS1-2 2010年に宮崎県でアウトブレイクした口蹄疫の現地防疫業務…………… 115
○末吉益雄 (宮崎大 農学部獣医学科)
- DS1-3 環境問題の視点からの基礎的知見…………… 116
○田中康男¹、代永道裕⁴、長田 隆²、山下恭広¹、荻野暁史¹、福本泰之¹、安田知子¹、横山 浩³、池口厚男³、住谷啓子¹、男山啓子¹、中井晴美¹
(¹畜産草地研究所 浄化システム研究チーム、²畜産草地研究所 畜産温暖化研究チーム、³畜産草地研究所 資源化システム研究チーム、⁴畜産草地研究所 企画管理部)
- DS1-4 日本における2000年と2010年の口蹄疫流行について…………… 116
○筒井俊之 (動衛研 疫学研究チーム)
- DS1-5 2010年宮崎で発生した口蹄疫の診断と分離されたウイルスについて…………… 117
○吉田和生¹、深井克彦¹、森岡一樹¹、小野里洋行¹、山添麗子²、坂本研一³
(¹動衛研 国際重要伝染病チーム、²動衛研 動物疾病対策センター、³動衛研 管理監)
- DS1-6 防疫資材としての抗ウイルス薬の開発の現状…………… 117
○坂本研一¹、吉田和生¹、大橋誠一¹、深井克彦¹、森岡一樹¹、小野里洋行¹、古田要介²
(¹動衛研 海外病研究施設、²富山化学工業)

シンポジウム

3月31日(木) 第1会場 演題番号 DS2-1~DS2-6

15:30~18:30

座長：彦野弘一（動衛研）、中西照幸（日本大）

細胞性免疫研究の最新知見—ワクチン開発の見地から

- DS2-1 感染症に対する細胞性免疫と細胞性免疫誘導型ワクチン…………… 118
○保富康宏^{1,2}
(¹独立行政法人医薬基盤研究所 霊長類医科学研究センター、²三重大学 大学院医学系研究科病態解明医学講座免疫制御)
- DS2-2 呼吸器粘膜におけるCD8T細胞免疫応答…………… 118
○高村史記 (近畿大学 医学部免疫学教室)
- DS2-3 魚類の細胞性免疫機構について…………… 119
○中西照幸¹、柚本智軌²、戸田秀明¹、柴崎康宏¹、藪 健史¹
(¹日本大 生物資源科学部獣医学科、²九州大学 農学研究科)
- DS2-4 魚類の細胞内寄生性病原微生物感染症防除のためのワクチン研究…………… 119
○廣野育生¹、加藤豪司¹、安池元重^{1,2}、近藤秀裕¹、青木 宙¹
(¹東京海洋大学 海洋科学技術研究科ゲノム科学研究室、²ピクトリア大学)

DS2-5	結核菌感染制御におけるPD-1分子の重要性	120
	○河村伊久雄、酒井俊祐、光山正雄 (京都大学 大学院医学研究科微生物感染症学)	
DS2-6	牛の難治性疾病に対する多機能型ワクチン戦略	120
	○今内 覚 ¹ 、池淵良洋 ¹ 、寸田祐嗣 ¹ 、小沼 操 ² 、村田史郎 ¹ 、大橋和彦 ¹ (¹ 北大 大学院獣医学研究科、 ² 元北海道大学)	

ポスター

3月30日(水) ポスター会場 演題番号 DP-1~DP-36 コアタイム 12:00~13:00

DP-1	豚丹毒菌の全ゲノム解析2：他菌種との比較	225
	○下地善弘 ^{1,2} 、小川洋介 ¹ 、施 芳 ¹ (動衛研、 ² 東京理科大 生命科学研究所)	
DP-2	豚丹毒菌分泌蛋白質の同定と感染防御能の解析	225
	○施 芳 ¹ 、小川洋介 ¹ 、下地善弘 ^{1,2} (動衛研、 ² 東京理科大 生命科学研究所)	
DP-3	豚丹毒菌トランスポゾン挿入弱毒変異体の遺伝学的解析	225
	○小川洋介 ¹ 、白岩和真 ² 、施 芳 ¹ 、下地善弘 ^{1,3} (¹ 動衛研 次世代製剤開発チーム、 ² 動衛研 動物疾病対策センター、 ³ 東京理科大 生命科学研)	
DP-4	<i>Campylobacter jejuni</i> の胆汁酸抵抗性と鶏腸管定着性に関わる <i>hldD</i> 遺伝子の役割	225
	○岩田剛敏、楠本正博、秋庭正人 (動衛研 安全研究チーム)	
DP-5	豚由来 <i>Campylobacter coli</i> における抗菌剤使用と耐性発現の関係	226
	○小澤真名緒 ¹ 、比企基高 ¹ 、高木恵実 ¹ 、蒔田浩平 ² 、田村 豊 ³ 、浅井鉄夫 ¹ (¹ 農水省 動物医薬品検査所、 ² 酪農大 獣医学教室、 ³ 酪農大 食品衛生学教室)	
DP-6	<i>Campylobacter jejuni</i> におけるSignature-tagged mutagenesis (STM)法の確立	226
	○杉本愛有、角藤 梢、角田 勤、高井伸二 (北里大 獣医学部獣医衛生学研究室)	
DP-7	<i>Vibrio vulnificus</i> 敗血症に関与するリスクファクターの探索	226
	○柏本孝茂 ¹ 、上野俊治 ¹ 、岩崎千恵美 ¹ 、吉岡一機 ² 、武藤顕一郎 ² 、杉山寛幸 ¹ 、五條雅徳 ¹ 、 諏佐信行 ¹ (北里大 獣医公衆衛生学研究室、 ² 北里大 獣医解剖学研究室)	
DP-8	健康なブロイラーから分離されたセファロスポリン耐性大腸菌の性状	226
	○比企基高、白井 優、小澤真名緒、浅井鉄夫 (農水省 動物医薬品検査所)	
DP-9	ストレス応答関連シグマ因子RpoSはサルモネラのVBNC状態への移行を遅らせる	227
	○楠本晃子、原田俊彦、牧野壮一、川本恵子 (帯畜大 動物・食品衛生研究センター)	
DP-10	北海道で分離された牛由来 <i>Salmonella</i> Typhimuriumの分子疫学的解析	227
	○玉村雪乃 ¹ 、内田郁夫 ^{1,2} 、田中 聖 ¹ 、岡崎ひづる ³ 、手塚 聡 ⁴ 、羽生英樹 ⁵ 、片岡那津見 ⁶ 、 牧野壮一 ⁷ 、木嶋真人 ¹ 、窪田宜之 ¹ 、菅野 徹 ^{1,2} 、畠間真一 ¹ 、石原涼子 ¹ 、秦 英司 ¹ 、山田裕也 ⁴ 、 中岡祐司 ⁴ 、秋庭正人 ¹ (¹ 動衛研、 ² 岐阜大院連獣、 ³ 北海道網走家畜保健衛生所、 ⁴ 北海道根室家畜保健衛生所、 ⁵ 北海道日高家畜保健衛生所、 ⁶ 動物検疫所、 ⁷ 帯畜大)	
DP-11	ヨーネ菌の1塩基反復多型とこの領域に隣接する1塩基多型の有用性の検討	227
	○西森 敬 ¹ 、羽生英樹 ² 、齊藤真里子 ² 、衛藤真理子 ³ 、永田礼子 ¹ 、川治聡子 ¹ 、吉原一浩 ¹ 、 森 康行 ¹ (動衛研、 ² 動検、 ³ 北海道・家保)	

- DP-12 国内のイヌのレプトスピラ症サーベイランス…………… 227
 ○武藤麻紀¹、小泉信夫¹、鈴木麻未²、大西 真¹、赤地重宏³、岡野 祥³、平良勝也³、中村正治³、濱崎光宏³、堀川和美³、坂本晃子³、船津丸貞幸³、松本一俊³、八尋俊輔³、原田誠也³、山本正悟³
 (¹感染研 細菌第一、²北里大 薬、³イヌレプトスピラ症サーベイランスチーム)
- DP-13 日本におけるヨーロッパ腐蝕病菌 (*Melissococcus plutonius*) 株の多様性 …………… 228
 ○荒井理恵^{1,2}、富永 潔³、大倉正稔⁴、伊藤一智⁵、岡村直美⁶、大西英高⁷、大崎慎人⁴、高松大輔^{2,4}
 (¹埼玉県中央家保、²岐阜大院連獣、³山口県環境保健センター、⁴動衛研、⁵岐阜県岐阜家保、⁶動検、⁷福島県中家保)
- DP-14 野生ニホンカモシカから検出された *Mycoplasma* *ovis* …………… 228
 ○大竹祥紘¹、鈴木 尋¹、渡邊祐策^{1,2}、藤原正俊^{1,2}、原澤 亮^{1,2}
 (¹岩手大 農・獣医微生物、²岐阜大院連獣)
- DP-15 西日本地域における牛のヘモプラズマ感染…………… 228
 ○藤原 優¹、笹岡文菜¹、渡邊祐策^{1,2}、藤原正俊^{1,2}、大下克史³、原澤 亮^{1,2}
 (¹岩手大 農・獣医微生物、²岐阜大院連獣、³NOSAI広島)
- DP-16 飼育下におけるペンギンの脚鱗部の病巣から分離された *Trichosporon asteroides* …………… 228
 ○村田倫子¹、佐野文子²、村上 賢¹ (¹麻布大 獣医、²千葉大 真菌センター)
- DP-17 バクテリオシン耐性受容株を用いた混合培養接合伝達試験法の改善…………… 229
 ○臼井 優、比企基高、小澤真名緒、永井英貴、浅井鉄夫 (農水省 動物医薬品検査所)
- DP-18 鶏伝染性コリーザワクチンに対する新規抗体測定系の開発…………… 229
 ○坂元隆一、酒井友世、牛島稔大、今村 孝、本田 隆、坂口正士、城野洋一郎
 (化学及血清療法研究所 第二研究部第二研究室)
- DP-19 ヨーネ菌遺伝子抽出精製キットの開発…………… 229
 ○森 康行¹、永田礼子¹、吉原一浩¹、峯岸恭孝²、西川知香²、原口浩幸³
 (¹動衛研 ヨーネ病研究チーム、²(株)ニッポンジーン、³(株)ファスマック)
- DP-20 新規の恒温DNA増幅法の開発：Cross Priming Amplification法 …………… 229
 ○遊佐精一^{1,2}、杉山圭一¹、菊池 裕¹、小西良子¹、Qimin You²
 (¹国立医薬品食品衛生研究所 衛生微生物、²常熟理工大学 食品工学部)
- DP-21 牛の悪性カタル熱発生農場における羊ヘルペスウイルス 2型動態解析…………… 230
 ○清水倫奈¹、石原涼子²、下村裕子¹、小澤みどり¹、宮根和弘^{2,3}、枝松弘樹⁴、畠間真一²、安井 正¹、菅野 徹^{2,5}
 (¹北海道後志家畜保健衛生所、²動衛研 北海道支所、³北海道釧路家畜保健衛生所、⁴北海道上川家畜保健衛生所、⁵岐阜大院連獣)
- DP-22 ウマヘルペスウイルス1型を検出するLAMP法における鼻腔スワブからのウイルス遺伝子抽出過程の省略化…………… 230
 ○根本 学¹、太田 稔²、辻村行司¹、坂内 天¹、山中隆史¹、近藤高志¹、松村富夫¹
 (¹JRA総研 栃木支所、²JRA 栗東トレーニング・センター 競走馬診療所)
- DP-23 動物園の大型ネコ科獣におけるCDV疫学調査 …………… 230
 ○塩田佳代子^{1,2}、米田美佐子¹、杉山貴紹¹、宇根有美³、松木直章²、甲斐知恵子¹
 (¹東大 医科学研究所 実験動物研究施設部門、²東大 農・獣医臨床病理、³麻布大 獣医・病理)

- DP-24 猫伝染性腹膜炎ウイルス(FIPV)感染マクロファージから放出されるTNF- α は好中球エラスターゼの産生を促進する…………… 230
 ○高野友美、西山友理、佐藤美幸、早坂惇郎、東奈都子、中村美智代、佐藤亮一、宝達 勉
 (北里大 獣医伝染病)
- DP-25 豚繁殖・呼吸器障害症候群 (PPPS) 対策としてのアイブロシンの効果 …………… 231
 ○石関紗代子¹、石川弘道¹、足立吉藪²
 (1サミットベテリナリーサービス、²茨城大 農・動物保健衛生学)
- DP-26 豚コレラウイルス弱毒生ワクチン株の豚継代による病原性獲得に関与するアミノ酸の同定…… 231
 ○田村友和¹、迫田義博¹、吉野 史¹、野村拓志¹、山本直樹¹、Ruggli Nicolas²、岡松正敏¹、喜田 宏^{1,3}
 (1北大院 獣医学研究科 微生物学教室、
²Institute of Virology and Immunoprophylaxis, Switzerland、
³北大 人獣共通感染症リサーチセンター)
- DP-27 牛血液から分離された新たなオルビウイルスの遺伝子解析…………… 231
 ○加藤友子¹、砂川真紀²、白藤浩明¹、梁瀬 徹¹、山川 睦¹
 (1動衛研 九州支所、²沖縄県北部家畜保健衛生所)
- DP-28 飼養環境が異なる牛群における呼吸器系牛ウイルスの感染状況…………… 231
 ○庄司智太郎¹、坪井孝益¹、佐々木英知²、小笠原清高³、渡部 巖³、林 敏展²、田栗ユリ子¹、和田正美¹、倉岡 勝¹
 (1動衛研 東北支所、²三八地域県民局地域農林水産部 八戸家畜保健衛生所、
³上北地域県民局地域農林水産部 十和田家畜保健衛生所)
- DP-29 2008年から2010年の国内飼育豚における新型インフルエンザA (H1N1) ウイルス抗体保有状況 232
 ○長尾和哉¹、畝田隼希²、酒井梨花²、田中咲穂²、時吉幸男²、来海和彦¹、江副伸介¹、本田 隆¹、水野喬介¹
 (1化血研、²熊本保健科学大)
- DP-30 H7亜型高病原性鳥インフルエンザウイルス感染鶏の病態変化と伝播機構の解明 …………… 232
 ○鈴木耕太郎^{1,4}、岡田浩尚^{2,4}、伊藤寿浩^{2,4}、久保正法³、多田達哉^{1,4}、塚本健司^{1,4}
 (1動衛研 人獣感染症研究チーム、²産業総合研究所 集積マイクロシステム研究センター、
³動衛研 動物疾病対策センター疾病診断室、⁴JST CREST)
- DP-31 インフルエンザウイルスのPB2蛋白の627番目のアミノ酸がNP遺伝子のvRNAとcRNAの合成比を決定する…………… 232
 ○山本直樹¹、迫田義博¹、岡松正敏¹、喜田 宏^{1,2}
 (1北大院 獣医学研究科 微生物学教室、²北大 人獣共通感染症リサーチセンター)
- DP-32 我が国における牛白血病ウイルスの群内伝播に関する要因分析…………… 232
 ○小林創太¹、筒井俊之¹、早山陽子¹、西田岳史¹、小西美佐子²、亀山健一郎²、村上賢二²
 (1動衛研 疫学研究チーム、²動衛研 ウイルス病研究チーム)
- DP-33 クマ笹エキス・ポリサッカライドの抗ウイルス活性…………… 233
 ○内藤恵理花¹、田原口智士¹、原 元宣¹、来海芳久²
 (1麻布大 獣医微生物2、²出雲不二本舗)
- DP-34 豚繁殖障害・呼吸器障害症候群ウイルスに対する記憶性T細胞の反応 …………… 233
 ○塚原隆充^{1,2}、原山智子¹、井上 亮¹、牛田一成¹
 (1京都府大院 生命環境科学・動物機能、²栄養・病理学研)

- DP-35 初乳を介した母豚からの記憶性T細胞の移行…………… 233
○原山智子¹、井上 亮¹、塚原隆充^{1,2}、中西信夫³、遠藤 結⁴、徳山桂理⁴、牛田一成¹
(¹京都府立大学大学院 生命環境科学研究科・動物機能学研究室、²栄養・病理学研究所、
³株式会社京都動物検査センター、⁴メリアル・ジャパン株式会社)
- DP-36 コロニー形成能および分化能の解析によるイルカ骨髄における造血細胞の証明…………… 233
○瀬川太雄¹、伊藤琢也¹、鈴木美和¹、岩崎俊秀²、森友忠昭¹、中西照幸¹、酒井健夫¹
(¹日本大 生物資源学部、²遠洋水研 鯨類生態研究室)